獄　中　記

<福 山 辰 夫>

第 三 回

皇紀 2652 年【平成 4 年･西暦 1992 年】

10 月 31 日（土）

免業日。本日は、午前 10 時から慰問演芸『**あべ静江ショー**』が有り。あべ静江のほか、前座歌手として樋口夏ら女性歌手が熱唱する。そういえば、久里浜特別少年院の「**考査期間**」で一緒だった**三重県津市の極東愛桜会系**（当時）T 氏の幼馴染が、あべ静江の実弟だったという昔話を思い出す。しかし、もういい歳であろうに「**真っ赤なミニスカートのドレス**」で太股も露わにして歌唱する姿には、少々無理があるのではないか。

『**学生街の喫茶店**』、『**水色の涙**』と歌う曲は全て懐かしい。

11 月 1 日（日）

『**自衛隊記念日**』。岩波書店『**広辞苑**』によると、

「**我が国の安全を保つ為の、直接及び間接の侵略に対する防衛組織。防衛庁（当時）が管理･運営する。陸上･海上･航空の各自衛隊からなる。1954 年自衛隊設置法により、保安隊（警察予備隊の後身）。警備隊（海上警備隊の後身）を改組したものである**」、とある。

世界では軍隊組織と認めているようだが、我が国においては軍隊であるにもかかわらず、軍隊でないという現代日本独特の登用憲法によって解釈された組織。しかし、国家とは国民の生命と財産を守ることが『**民族自決権**』というものではないのか？

有事の際には、全く役に立たぬ軍隊なら所詮は宝の持ち腐れで、「**おもちゃの兵隊**」では…。

命を賭けている自衛官諸君には誠に申し訳ないが、そう思っている日本国民は多いと思うが。

11 月 3 日（火）文化の日

『**文化の日**』とは、戦前の祭日では『**明治節**』といい。明治大帝の威徳を偲ぶ日でもある。

明治 23 年 10 月 30 日に発布された『教育ニ關スル勅語』に

爾（なんじ）**臣民**（しんみん）**父母**（ふぼ）**ニ　孝**（こう）**ニ**	
兄弟（けいてい）**ニ　友**（ゆう）**ニ**	**夫婦相和**（ふうふあいわ）**シ**
朋友相信（ほうゆうあいしん）**シ**	**恭儉己**（きょうけんおの）**レヲ　持**（じ）**シ**
博愛衆（はくあいしゅう）**ニ　及**（およ）**ホシ**	
學（がく）**ヲ　修**（おさ）**メ**	**業**（ぎょう）**ヲ　習**（なら）**ヒ**
以（もっ）**テ　智能**（ちのう）**ヲ　啓發**（けいはつ）**シ**	
德器（とくき）**ヲ　成就**（じょうじゅ）**シ**	**進**（すすん）**テ　公益**（こうえき）**ヲ　廣**（ひろ）**メ**
世務（せいむ）**ヲ　開**（ひら）**キ**	**常**（つね）**ニ　國憲**（こくけん）**ヲ　重**（おもん）**シ**
國法（こくほう）**ニ　遵**（したが）**ヒ**	
一旦緩急（いったんかんきゅう）**アレハ　義勇公**（ぎゆうこう）**ニ　奉**（ほう）**シ**	
以（もっ）**テ　天壤無窮**（てんじょうむきゅう）**ノ　皇運**（こううん）**ヲ　扶翼**（ふよく）**スヘシ**…	

何故、これが「軍国主義」となるのであろうか。「日本人」としては当たり前の概念であり、反日主義者が何と言おうが、大和の民としてこの精神文化は後世に伝えていかねばならない。

祝日にて、刑務所では『特別菜』（特食）の給与有り。

11 月 11 日（水）

刑務作業 10 月分の賞与金の教示有り。「8 等工」＝1,176 円也。1 ヶ月をフルに働いて、この金額である。然れども本来『懲役』とは、金を稼ぐ場所には非ず、況や罪を償う場所であるという事だ。更に言えば「男を磨く場所」であることを心しなければいけない。

今の生活に後悔はせずとも、日々の反省は怠らずに生活をしないと駄目である。

11 月 16 日（月）

両親が面会に来る。還暦をとうに過ぎた父が川越の自宅から車を運転して母と共に来仙。

誠に有り難いことであり、矢張り親ならでは…。

事前に便りにて依頼した本 3 冊を差入れして頂く。

11 月 19 日（木）

本日より『冬季処遇』となる。舎房に増貸の掛毛布 1 枚と敷毛布 1 枚（＊敷布団と敷布の間に敷

いて使用するもの）が貸与される。それにしても、みちのく仙台の冬は早い。

11月21日（土）

講堂にて午前9時30分から2時間、映画上映が有り。

『遠き落日～野口英世と母の生きがい』（松竹配給。1992年公開。出演：三田佳子、三上博史、仲代達矢、牧瀬里穂、田村高廣、河原崎長一郎、長門裕之、山城新伍ほか）。

渡辺淳一原作、野口英世の伝記小説を新藤兼人監督によって映像化されたもの。

母である野口シカと英世の壮絶な親子愛と、梅毒や黄熱病の研究に生涯を捧げて偉人とされる英世の借金癖や浪費癖といった負の部分を描いた作品。我々の幼少期には「親孝行の見本」とされていた人物が、己の研究等に没頭するあまりに周囲の者に迷惑を掛けていたという事を、三上博史演ずる「野口英世」の人間臭さが好演であった。

11月23日（月）勤労感謝の日

『勤労感謝の日』とは、旧新嘗祭になる。そもそも我が国の祝日には、その殆どが皇室の「祭事」に関係する。『新嘗祭』（にいなめさい）も、天皇陛下が新穀を天神地祇にすすめ、また親しくこれを食する祭儀である。古くは陰暦11月の中の卯の月に行われた。

近時は11月23日に行われ、祭日の一つとされたが、現制ではこの日を『勤労感謝の日』として国民の祝日に加えた。天皇陛下の即位後に初めて行うものを『大嘗祭』（だいじょうさい）という。別称「にいなめまつり」、「しんじょうさい」ともいう。

11月25日（水）

工場ストーブの使用開始。囹圄の中（うち）は、特別変わったことはないものの、今日は『憂國忌』で有る。1970年（昭和45年）の11月25日に「陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地」に於いて自決をした、『楯の会』の三島由紀夫烈士と森田必勝烈士の命日を顕彰して命名したという。

いみじくも、今月下付をした領置本の中に『花ざかりの森・憂国』（三島由紀夫著・新潮文庫）が27日（金）に交付される予定である。

12月8日（火）

11月分の賞与金の教示有り。「8等工＋1割増」＝1,107円也。日当50円位か…。

12月10日（木）

みちのく仙台は、既に**「真冬」**である。本日、誕生日にて**28歳**になる。

12月16日（水）

雑居房の総転房（**＊部屋替え**）有り。

１年に１度だけ、暮れのこの時期に実施されるとの事で、小生にとっては宮刑に務めて初めてとなる。部屋割りを決めるのは工場担当の特権であり、部屋替えの前は必ずと言っていいほど、懲役各人が誰と一緒になりたいとか、誰それとは一緒になりたくないとかの猟官運動をする。何故なら、一度決まったら１年間は嫌でも四六時中顔を合わせないといけないので、皆が必死になるのだ(笑)。これが娑婆であれば、顔を合わせたくないと思えば会わなければいいのだが、ここは獄（**ひとや**）である。

だいたい、ひとつの工場の人員が35～40人程度の世界ではそれも儘ならず、只管（**ひたすら**）辛抱と我慢しかないのだ。よく、獄中は**「社会の縮図」**とも言われるだけあって、皆自分勝手で己の主張を通そうとする輩ばかりである。常にストレスに晒される日々は娑婆の比ではない。結局、小生は**「2舎2階6室～2舎2階5室」**と隣の房へと転房となる。

肝心の同房の顔ぶれは、極東系組長のＯ氏と東亜友愛系のＵ氏、稲川会系のＩ氏、そして日課のＧ氏、Ｙ氏、Ｕ氏、Ｍ氏と小生を含む**計8人**となる。

12月17日（木）

早速、妻に便りを認める（**便箋7枚**）。部屋替えを行なった旨、そして近況報告等を綴る。

12月19日（土）

慰問演芸**『二美仁歌謡ショー』**が有り。今年２度目となる**二美仁**（**ふたみじん**）の慰問だが、この御仁は**「歌う刑務官」**と巷では呼ばれるほど、宮刑のみならず全国の刑務所にボランティアで慰問を行っているという。

以前にも記したが、当初に来るのは厚生課長である小玉課長との縁からしい。毎回、前座で若い女性歌手を連れてくるところなんぞは、男だらけの日常である小生ら懲役のツボを心得ている。この**二美仁**という御仁は北海道の出身で、今は大スターになった青森県出身の**「吉幾三」**が全然売れない頃に面倒を見たようで、今日においても**吉からは兄貴**と呼ばれているとい

う。身銭を切って迄、刑務所を慰問するなんて誠に奇特な人物ではないか？

12月23日（水）天皇誕生日

戦前であれば『天長節』となる今日は、ここ囹圄の中では特別菜として「ショートケーキ」1個が給与される。親方日の丸の法務省管轄である故、祝日には必ず特別菜としてなにがしらかの副食が出ることになっている。

12月29日（火）

御用納め。工場作業は1時間繰り上げの3時間半で終業となる。

終業の15分前に自席周辺の「大掃除」を行う。平成4年もあと2日と半日だ…。

夕方に父から便り有り。文面は、川越平塚一家四代目総長である高島義雄親父が15日（火）の夜に「肝臓癌」で急逝（享年56歳）したとの報せであったが、まさか…あの親父が…と思いつつ、何度も文を読み返しては人前にも憚らず落涙する。仮就寝となって隣で寝ている、新宿の「東亜友愛事業組合伊藤興業系」のUさんと布団に入って語らう。

そういえば「雑居総転房」の前日である15日の就寝直前（午後8時30分過ぎ頃）に、突然部屋の蛍光灯がチカチカした後、橙色になったと思ったら「パッ」と切れてしまい、夜勤看守に願い出て蛍光灯を交換した話をすると、Uさん曰く「多分、親分が福山さんに別れを告げに来たのですよ」と慰められる。親父と最後に会ったのは『川越拘置支所』の面会室で、珍しく姐さんと2人で来てくれたことを鮮明に思い出す。

その時に親父が言った言葉が「お前は俺の若い衆として堂々と務めてこい。しかし、だからといって今回の事件のことで決して驕ることなく、そして常に首（こうべ）を垂れて生きろ」、「ホ元やお前が返ってくる迄、俺は引退せずに総長でいるから1日も早く帰ってこい」であった。

あの時の親父の姿を忘れず、残る刑期をしっかりと務めて行く事を誓う。　合掌

12月30日（水）

「年末年始の休日」に入る。

午前9時から11時迄、テレビVTR視聴『息子』（配給：松竹。1991年公開。出演：三國連太郎、永瀬正敏、和久井映見、田中隆三、原田美枝子、浅田美代子、田中邦衛ほか。監督：山田洋二）。

岩手の田舎に住む父親と、東京でフリーアルバイターとして生活を送る息子との対立と和解

を通して、真の家族の幸福とは何かを描いた作品。結構感動ものであった。午後1時から3時間半迄、布団を敷いての午睡可。途中で**「総八浴」**にて、出房。入浴（**15分間**）。

12月31日（木）大晦日

平成4年は、本日をもって終わり。

午前中は、テレビVTR視聴有り。**『一杯のかけそば』（配給：東映、電通。1992年公開。出演：渡瀬恒彦、市毛良枝、泉ピン子、鶴見辰吾、柳沢慎吾、池波志乃ほか。監督：西河克己）**。

札幌の時計台横丁（**架空の地名**）にある**「北海亭」**という蕎麦屋に子供2人を連れた貧相な女性が現れた所から物語は始まる。社会現象を起こした映画である。所詮、囹圄の中にて正月休み気分もあったものではないが、夕餉後直ぐに箸休めもする暇もなく**「年越しそば」**としてカップ麺の**『日清のどん兵衛･天ぷらそば』**と袋菓子詰合せが給与される。

夜は、テレビ視聴有り。**『NHK紅白歌合戦』、『ゆく年くる年』**を布団に横臥（**おうが**）して、夕餉時に給与された**「袋菓子」**を食しながら視聴する。午前0時の時報と共に就寝。

近くのお寺の除夜の鐘が聞こえる。

皇紀2653年【平成5年･西暦1993年】

1月1日（金）元旦

朝からテレビ視聴有り。**『寿寄席』**ほか、民放放送の正月番組の視聴を行う。

尚、朝餉時に**「折詰」**と二の折として**「羊羹、饅頭、萩の月」**等の詰合せが給与される。

午後は、午睡をしながらの読書を行う。父より年賀状が届く。

夜は18時～21時迄、テレビVTR視聴有り。

1月2日（土）

午前中は、テレビVTR視聴有り。

『友情』（配給：松竹。1975年公開。出演：渥美清、中村勘九郎、松坂慶子ほか。監督：宮崎晃）。

出演者全員が若くて、古い映画だ…。午後は午睡。総入浴有り。

夜は18時～21時迄、テレビ視聴有り。

1月3日（日）

「年末年始の休日」も最終日。午前中は、テレビ VTR 視聴有り。

『乱』（配給：東宝、日本ヘラルド映画。1985 年公開。出演：仲代達矢、寺尾聰、根津甚八、原田美枝子、井川比佐志、ピーター、植木等ほか。監督：黒澤明）。

シェイクスピアの悲劇『リア王』と毛利元就の「三子教訓状」を元に、架空の戦国武将・一文字秀虎の家督譲渡に端を発する 3 人の息子との確執と、兄弟同士の骨肉の争い破滅を描く。

当時の日本映画で最大規模となる 26 億円の製作費を投じ、構想から 9 年かけて完成した大作である。戦国時代を舞台にしたストーリーだが、今ひとつ分かり辛くて物足りないというのが同房の他囚と小生の意見である。午後は、午睡。横になって読書を行う。

夜は 18 時～21 時迄、テレビ視聴有り。

1月4日（月）

正月気分が抜けぬまま、平成 5 年の「仕事始め」となる。

現実に戻りて終日（ひねもす）ワープロ作業に従事する。

1月7日（木）

今日は、人日（七草）。巷間では「七草粥」を作って祝うも、囹圄の中は平常通りの一日。

因みに、春の七草は「芹･薺（なずな）･御形（ごぎょう）･繁縷（はこべ）･仏の座（ほとけのざ）･菘（すずな）･蘿蔔（すずしろ）」になる。これを俎板に載せて囃してたたき、粥に入れて食すのである。

1月9日（土）

午前中は 9 時半から 11 時迄、慰問演芸『秋月信・新春芸能省ショー』が講堂にて催される。

秋月信は地元仙台の作詞家で『福を呼ぶ男～仙台四郎は福の神』という唄を作詞している。

この歌を歌っている加藤八郎も出演者として最後に登場。

講堂では、温風のジェットヒーターを数台稼働させるものの、この真冬の時期での行事出席は骨身に染みる程寒い。況してや彼方此方で咳き込む者たちが多く、慰問を終えて還房すると小生も悪寒がするので、どうやらまた風邪を引いてしまったようだ。

1月11日（月）鏡開き

起床すると、案の定一昨日の慰問演芸で風邪をもらったようである。

工場出役後、直ぐに担当の板橋看守部長に願い出る。午前中に医務分室にて診察を受けるも、38度9分と高熱の為、医師より午後から入病するようにとの指示を受ける。

医務診察から戻ると、12月分の賞与金の教示有り。「7等工＋1割増」＝1,335円也。

正月早々のダウンであるが、所内では風邪が相当流行っているようで第1病棟は満杯。

普段は、ほぼ使用をしていない第2病棟2階の雑居房に入る。先客が4名で、その中の1人が岩手県の「松葉会系」Tさんであり、7工場で立ち役（＊指導工）をやっているとの事。

他の3人も皆が高熱で臥せっており、誰1人として食欲もなく、只管寝ている。

1月15日（金）成人の日

昨日、工場の定期発信日に付き妻宛に便りを出す（便箋7枚）。折角の免業日だが、熱が下がらず終日寝て過ごす。昼餉時に祝日菜の副食として『バナナパン』1個の給与有り。

1月19日（火）

昨日は、1週間程一緒に休養をしていて親しくなった7工場のTさんが「休養解除」となり、一足早く工場へと戻ってしまう。だが、小生は『結核性胸膜炎』を患っているという過去から、担当の医師より「もう一日様子を見よう」という見解で、他の4人が工場に戻るも小生1人が帰れず。結局、雑居房で1人になった為、私物のみを纏めて第1病棟の雑居房へと転房する。

偶然ながら、転房先に同じ13工場で「写植文選工」としてワープロ作業を行っている、茨城県水戸市の「住吉会中原会」O氏（松葉会系との抗争・殺人事件で務めている）がおり、僅か1日ながらも同房となる。

そして、今日は午前中に無事「休養解除」となり、O氏へは一足先に工場に戻りますと言って。迎えの若い看守に連行されて10時過ぎに工場へと出役。

工場に戻ると2舎2階5室の同房で日課（計算工）だったGさんが「仮釈放」間近となり『希望寮』に上がったと伝え聞く。同房の者から「くれぐれも、福山さんに宜しく伝えておいて下さい」と伝言を頂く。然れども、まだまだ自らが出所することなど考える余裕はない。